

### 第3回 江別市廃棄物減量等推進審議会（要旨）

日時：平成24年2月7日（火）10：00～

場所：市民会館31号室

出席者：（委員）押谷会長・佐藤副会長・高橋委員・林倉委員・星委員・最上委員・蛭名委員・後藤委員・森木委員・山崎委員・菊池委員・中井（和）委員（12名）  
（市）柴垣部長・越田次長・川村室長・澤田課長・堀課長・立石参事・明石課長・渡辺主幹・松井係長・山口主事・金子主事（11名）

傍聴者：2名

#### 1. 開会

澤田課長：これより審議会を開催いたします。本日の出席者は13名中12名で本審議会が成立していることを報告します。

#### 2. 会長挨拶

#### 3. 議事（議題）

##### （1）報告事項

- ・基本計画施策実施状況について
- ・大型ごみの収集開始1年経過報告について

##### （2）その他

押谷会長：それでは事務局から基本計画施策実施状況について基本方針毎に報告をお願いします。

#### 【基本方針1 3Rの推進について説明】

押谷会長：質疑等がありますか。

菊池委員：施策1-8と1-10の実施状況で、先進地視察予定とありますが視察予定地とそこに決めた観点について伺います。

澤田課長：先進地視察につきましては本州の2箇所を予定しております。食品残渣の回収あるいは資源化に向けて取り組んでいるところを予定していますので、その点について参考にしたいと考えております。

柴垣部長：今回の先進地視察は環境を意識し、サイクルシェアという自転車の共同利用がひとつの視点で、もうひとつはバイオというかたちの循環型社会の形成をいかに構築できるのかという視点で、群馬県太田市と東京都立川市を視察予定地として考えております。

押谷会長：次回以降の審議会で報告いただければと思います。

他にありますか。

中井(和)委員：施策1-10「資源物収集の品目拡大の検討」については今のところ生ごみのみで、プラスチックについては検討する予定がないのでしょうか。

もうひとつは、施策1-5「生ごみ減量化の推進」にある電気式処理機の助成ですが、コストの面で問題があると過去に指摘している人もいますし、私自身も指摘しています。コスト面について考えているのか伺います。

押谷会長：現在はクリーンセンターが主体となる一般廃棄物処理基本計画を立ち上げていますので、プラスチックの分別については、今後の課題にはなるとは思いますが、慎重にご議論いただくことが必要であると思います。

電気式処理機の件ですが、ごみ処理計画の中で必ずしも助成を行うということではなく、ご希望の方に助成をするという趣旨だと思います。ダンボール式や電気式処理機についてもいろいろなご議論があると思いますが、多様なメニューを用意するというのが江別市のスタンスだと思います。

中井(和)委員：多様なメニューが必要というのはわかりますが、電気式処理機についてはコスト面について考えられていないです。その分で生ごみが減っても電気代にもならないです。そういうものを推進するのが良いのかどうか。

川村室長：ダンボール式容器で堆肥化したいと思っている方でも出来ない住宅事情がございますので、そういう場合に、コストが掛かるにしても電気式処理機で、堆肥化に取り組みたいという意志のある方に対して助成して導入を促進しようという形です。

現在のところ、助成している数量というのは減少している傾向にあります。ごみが減る分は経費にも満たないということについては、そのような議論もあるかと思いますが、生ごみ減量化の手段のひとつとして導入させていただいているということでご理解いただければと思います。

菊池委員：今回の先進地視察については、生ごみをどうするかについてのみの視察なのでしょうか。

柴垣部長：今回の先進地視察の主点は3つ持っています。

費用対効果を考えて1か所で多くのことを見られるということを考えて職員研修という位置づけで今回出張します。

一つは自転車のサイクルシェアで、もう一つは太陽光発電、それと生ごみの3つについて視察します。関係各部一緒になり、太田市は太陽光発電、立川市については生ごみとサイクルシェアの関係ということで設定理由はそのようになっています。

家庭から排出されているごみの40%程が生ごみですが、その生ごみをいかに減量化するかということのひとつの選択肢として電気式やダンボール式をメニューとして揃えています。昨年のパブリックコメントの中にも費用対効果についての話がありましたが、助成の台数についても縮小してきており、生ごみの水きりを啓発するなどのメニューを増やすという考え方で進めているところです。

川村室長：資源物品目拡大について、今回は生ごみを中心に視察に行きますが、他に要望

のありました古布については、回収拠点になっている場所のPRとさらに拠点を増やせないか、集団資源回収の中で増やせないか等についても合わせて検討しています。

澤田課長：施策1-14「使用済小型家電の回収」についてですが、民間事業者による小型家電の拠点回収を今月から始められるように進めており、まだ確定ではありませんので掲載していませんが、数事業所に依頼をしている状況です。

押谷会長：品目拡大の中に生ごみも含まれてくる可能性があり、先進地視察など、様々検討した上でそのような可能性が出てくれば当然、この審議会でも議論されると思います。

現在は多様なメニューが用意されていて、減量化に取り組んでいると理解いただいて、将来にわたり生ごみの有効利用ということが出てくればその場で議論をするのでありますが、いかがでしょうか。

中井(和)委員：生ごみのバイオガス化については、今回視察に行く先進地と比較して北海道は不利だと思います。道内にも生ごみのバイオガス化に取り組んでいるところはありますが、なぜ視察地が道内ではないのか。

柴垣部長：北広島や富良野などでもバイオの関係はしていますし、江別でも町村農場などで行っていますが、そのような身近にあるところは今後、見ていこうと考えています。たまたま今回行く視察地でバイオの関係をしているので、参考までに見てこようということですので、ご理解いただきたいと思います。

押谷会長：バイオガス化については道内でも成功事例もあれば、二の足を踏まざるを得ないところもあります。そのような情報を集めた上でさらにまた議論するというところでいかがでしょうか。

中井(和)委員：次の議論を待ちます。

押谷会長：他にありますか

高橋委員：確認と要望ですが生ごみについては、事業系のごみを対象として検討されているかと思いますが、家庭から排出される生ごみについても先進地等を参考にして、品目拡大が合理的に可能なのかについても検討をお願いします。

押谷会長：他にありますか。

菊池委員：施策1-3「環境教育の推進」のところですが、小学生などがクリーンセンターの見学をした時に溶融炉の施設を見てどのように感じているのか、感想等を聞く機会があれば教えてください。私自身は熱で溶かすというのは継続すべきではないと思うので、これが正しい処理の仕方だと思われるのは良くないと思っています。

押谷会長：今現在はクリーンセンター主体のごみ処理計画が行われていますので、菊池委員の意見は尊重しますが、それが必ずしも良くないという議論ではないと思います。

菊池委員：私の意見として述べさせていただきました。それに対してどう思われるのかはわかりませんが、世界的に見ても正しいやり方だとは思いません。見学された方々がどのように感じているのかについてお聞かせください。

立石参事：現在は平成19年からの長期包括により民間事業者がクリーンセンターの維持

管理をしています。小学生の施設見学につきましては民間事業者が対応している状況です。直接はアンケート等で聞いていませんが、不思議な処理施設だなという雰囲気では子供たちは見ております。

特に熱を利用したサーマルリサイクルについて施設全体の電気の約75%を活用して運転していることを説明するのですが、そういう点で驚いていると聞いています。

押谷会長：今後は何らかの形で感想文等を見られるように検討いただければと思います。

他にありますか。

(なしの声)

### 【基本方針2 適正なごみ処理の確保について説明】

押谷会長：質疑等がありますか。

(なしの声)

### 【基本方針3 市民の視点に立ったごみ処理システムの構築について説明】

押谷会長：質疑等がありますか。

中井(和)委員：大麻地区の最大の課題はカラス問題です。自治会でネットを用意するなどしていますが、カラス対策について今後、何か考えるつもりはないのですか。

明石課長：江別市としましては助成等の金銭的なものはないのですが、カラス被害の多いところには職員が出向きまして利用者の方々と相談しながらソフト面でフォローしております。そのようなことでカラス対策としていきますのでご理解いただきたいと思います。

中井(和)委員：他市町村では袋の色を変えるなどしていますが、それについては効果がないという考えなのか、それとも自治会当事者で解決すべき問題だという考えなのかでしょうか。

川村室長：カラス対策につきましては黄色い袋が有効であるなど、いろいろ試されているところがたくさんありますが、決め手となる対策がないというのが現状です。今の対策を続けながら、有効な手立てがあれば、皆さんと協議しながら進めていきたいと考えています。

押谷会長：他にありますか。

高橋委員：施策3-4「ごみ出し困難者に対する収集方法の検討」ですが、先進事例等で念頭に置いているところがあれば伺いたい。

明石課長：他市町村の状況を見ながら検討している段階です。

押谷会長：江別市もこれから高齢化が進んでいきますので、これについては当然、議論されなければならないと思います。

他にありますか。

(なしの声)

#### 【基本方針4 経済的・効率的なごみ処理の推進について説明】

押谷会長：質疑等がありますか。

星 委員：施策4-7「リサイクルバンク利用者負担の検討」とありますが、利用者というのは提供者なのか、必要なものを引取りに来る方なのか。

澤田課長：提供者側、引取り者側、両方について検討し、利用拡大に向けて取り組みたいと考えています。

押谷会長：他にありますか。

中井(和)委員：分別の手引きなどの作成に、これだけ税金が使われているということを分別の手引きなど一番身近なところに掲載しアピールすべきです。

柴垣部長：広報には市の財政状況が載っていますが、手引き等の紙面に余裕があれば検討していきますので意見として伺っておきたいと思います。

佐藤副会長：関連してですが、旧ごみ袋はどれくらい残っているのですか。

柴垣部長：ほとんど残っていない状況です。

佐藤副会長：手引き等で財政状況を説明することにより市民も旧ごみ袋の購入に協力し易くなると思います。

カラス対策ですが、パトロール中にカラスがごみステーションを荒らしているのを見かけたら、必ず自治会に知らせてほしい。連絡があれば自治会でそのごみステーションについて対策を考えます。

カラスを駆除することはできないのですか。

柴垣部長：駆除は難しい状況です。生ごみを散らかさないようにする手段としてカラス除けサークルがあります。カラス除けサークルを試しに使用して、良ければ自治会で購入していただきたいと思います。

カラス除けサークルもありますが、早期収集をしてカラスによる被害を避けるということも実施していますのでそれについてもご理解いただきたいと思います。

明石課長：カラス除けサークルの貸出分は30基程ですので、自治会全体にお貸しするというにはなりませんのでご理解ください。

中井(和)委員：先ほどの電気式処理機の予算があるのであれば、その分をカラス除けサークルの貸出しに使えないのでしょうか。

佐藤副会長：それについては今後の検討課題になると思います。

押谷会長：他にありますか。

菊池委員：施策4-1「施設の維持管理の推進」に関連してですが、処理施設委託終了後のことについては、いつ頃から検討されるのでしょうか。

もうひとつは、ダイオキシン等の調査について、今現在どれくらいの頻度で行われているのですか。

立石参事：処理施設は耐用年数20年ですので、あと10年という状況ですが、耐用年数に達したので廃止するというにはならないと思います。

国の方針としても20年以上の使用に耐えるような長期保全計画を立てることになっていますので、今現在はあと何年稼働できるかについて、検証しているところです。

ダイオキシン等の調査については年に2回測定しており、いずれも国の基準以下となっています。最終処分場については月1回の放流水の検査と年に1回ダイオキシンの調査をしております。

調査結果については昨年6月から（株）エコクリーン江別のホームページで掲載しております。

菊池委員：調査回数を増やすことは考えていないのですか。

柴垣部長：現段階では考えていません。

押谷会長：私の理解では国の基準や北海道の基準を上回った江別市独自の基準を定めていて、それをクリアしている状況ですので、今のところは回数を増やす必要はないということだと思います。

山崎委員：施策3-4「ごみ出し困難者に対する収集方法の検討」についてですが、これについては環境部だけではなく、他部局との連携を考えているのでしょうか。

川村室長：他部局と連携して進めていきたいと考えています。

蛭名委員：今のことに関連してですが現状を教えてください。

柴垣部長：現在はデイサービスのヘルパーさんや近所の方などにごみを出していただいていますので、市の方でごみ出し困難者に対して個別に収集はしていません。

押谷会長：他にありますか。

（なしの声）

以上で基本計画の説明については終わらせていただきます。次に大型ごみ収集状況についてご説明ください。

#### 【大型ごみ収集状況について説明】

押谷会長：質疑等がありますか。

蛭名委員：大型ごみに出された中でリサイクルされているものはあるのでしょうか。

澤田課長：収集されたものをそのままリサイクルしているということはありません。処理工程の中で出てきた金属類等についてはリサイクルしています。

蛭名委員：排出した方からすれば、ごみだと思えますが、使用に耐えられるようなものの中にはあるかと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

柴垣部長：大型ごみで排出された以上はごみですので、それをリサイクルするという事は一切考えていません。ごみとして排出された以上は、ごみとして扱わなければ、排出者の意思に反するという考え方で昨年度の基本計画作成時に決めさせていただいています。

蛭名委員：簡単ではないですが、これから考えてほしいと思います。

押谷会長：手数料収入はどれくらいなのでしょう。

堀 課長：手数料収入については実際に排出された個数ではなく取扱店で購入した量です。今年度4月から1月迄で約1万7千枚、約728万円の手数料収入です。

中井(和)委員：市民から手数料について高いなどの苦情はないのですか。また、同じ手数料でも大きさが違うものがあるので、手引きに大きさについて示してもらえない

ですか。

柴垣部長：金額について苦情というのは今のところ聞いていません。大きさについては、手引きに手数料一覧を掲載していますが、そこで判断できないものについては受付センターに問い合わせただいて、そこで説明して納得していただいていると考えています。

中井(和)委員：先ほど蛭名委員からもありましたが、たとえばつるはしなど、柄の部分を外せば自治会の資源回収に出せるということをもっと積極的にPRした方が良いのではないですか。

柴垣部長：金属以外の部分を外せば資源回収に出せるということもありますので、そのような情報をごみコミえべつ等で啓発して意識を変えていかなければと考えています。

押谷会長：他にありますか。  
(なしの声)

#### 4. 閉会

押谷会長：これにて今年度の廃棄物減量等推進審議会を終了します。

【部長挨拶】

11：40終了